白滝荘（しろたきそう）の日常

ズッコケ三田朗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白滝荘（しろたきそう）の日常

【Ｎコード】
Ｎ７２４７Ｍ

【作者名】
ズッコケ三田朗

【あらすじ】
ある日、わけあって転校した主人公＝神谷（かみや）　医月（いつき）、だけど俺が住むアパートはまともな人が・・・い、いない！？
俺に平穏はあるのか・・・。いや、ないなぁ～（泣）

1章　白滝荘にようこそ！（1）（前書き）

初めて書く小説なので温かい目で読んで下さい。
面白半分で書いたのでよく分からないと思いますが、どうかどうか見てって下さい。

1章　白滝荘にようこそ！（1）

ここ、上方市（かみがた）に少年がやって来た。
少年の名前は神谷（かみや）　医月（いつき）といい、わけあって転校しに来た。

「ここが上方駅か…。」

手元にある地図で確認しつつ、目的地の場所を探す。

「えっーーと…白滝荘はっと……あれじゃないよね…？」

もう、なんていうか「ボロッ」とか、「ドーン！」とかが背後に書いてありそうなアパート（？）が、目の前に。
で、でも看板の《荘》より前が無いから違う！……と、思う。

「キミ」
「ん？」

呼ばれた方を見るとジャージを着た両目が髪で隠れた少年がいた。
ご苦労なこったとか思いつつ要件を聞k「危ないよ？」…は？

ビュゥゥーーーンンンッ！！！
チッ

何かが背後から飛んで来た。俺の長い髪を掠めて。
……ってぇ、何！？今の！！

「！？あっ！！」

何かが丁度眼鏡の人のとこに！！

「人が…危ｎ（スカッ）…え？」

な、なんと避けちゃったよ！しかも目ぇ瞑りながら！！

う、嘘だろ！？

「ああ。あの人強いから。大丈夫だよ。」

へ、へぇ……そうなんだぁ…強いのか…。じゃなくて、なんか知ってそうだし、町のこととか聞いてみるか。

「あっそういえば貴方に聞きたい事があｒ（ヒュン）ですけ…ど…。」

「な～に？」

……な～に～Ｉ・ＭＡ・ＮＯ！！！？そしてなぜ言葉を遮られまくるんだ！？

……んでもってなんで平然としてられるんだ……こいつ？

「…何か今、通りませんでしたか？」

「通ったねぇ☆」

……この町はヤバイ。だってジャージ男が「ＨＡＨＡＨＡ☆」って笑ってるんだもん……。

「ゴラァァアアア！！テメェェエエ！！」

ヒーーーーッ！！今度は何！？冷や汗が止まらないぃぃぃ！！

「あっ対兵（たいへい）君と海兎（かいと）君だ。」

なぜにケンカ始めてるの！？つーかどっちが対兵という人でどっちが海兎という人なんだ！？
二人の話し合い（ケンカ）の内容を聞いてみた。

眼鏡「また貴様か、いい加減死ね。」
鉢巻き男「よくもまあ…サラリと…」

ヒィッ何！？あれ！！怖！！

「あっ君知らないの？なら、教えてあげるよ！あの眼鏡の人が端崎海兎
（はしざき　かいと）っていうんだ。」
「へぇ…」

な、なんか急に説明し始めた！

「あのもう一人の恐い人は？」
「え？ああ、あの鉢巻き？」「うん…」
「あの鉢巻きの人が坂嶺（さかみね）　対兵（たいへい）っていうんだ。」
「へぇー」
「って、あ。そういえば君、こんなにも知らないの？もしかしてココに来るの《初めて》？」
「実はそうなんですよ。アハハー」

ｗｈｙ？なぜ知らないだけでわかるのですか？もしかして町民全員知ってるの？？？

「高校…一年生？」
「あ、はい。」

「僕と一緒だぁぁぁぁ！！！」

ぬおう！うるさっ！てか…

「えっそうなんですか！？」

「はい！！！！！！」

いい返事だね。花丸あげよう！……じゃなくてってぇ！見えないと思った目が少しだけ見えた！

「で、どこの学校に転校するの？」

「上方第三高校ですが？」

「一緒！！！」

「えっマジで！？」

「本気と書いてマジなので！」

……いや、知ってるけど……。

「一緒のクラスになれるといいね！！！」

「うん」

「っと、その前に…。」

「？」

「まずは自己紹介」

……おっっっそぉぉぉぉぉぉぉぉいいいいいっっっっ！！！！

…自分でも忘れてた…。

「僕の名前は尾々岡（おおおか）良時（りょうじ）っていうんだ～。」

「《お》が多いね。」

「なんか言った？」

「い、いえ……何も」

いった瞬間死ぬ寸前のひとになった！！（つまり真っ白に…）
めっさビビったぁ。

「それじゃあ次、君！！名前、住む場所、電話番号！！」
「……そこまでいうの？」

なぜ電話番号を教えなきゃならんのだ。こいつと居たら平穏が無くなると思う……いや、確実に消える！

「えーっと、俺の名前は神谷　医月、高一だ。」
「おやっ変わった名前だね☆」

……いや、お前に言われたくない。

「えーっと、住む場所は白滝ｓ「ぬおう！！」

……ついに可哀そうな人になったか……。

「いいい今白滝荘に住むって言ったよね！！！！！！！」
「へ？言ったけｄ「おぉ！！人生にこんな偶然があるなんて！！！」

……どうやら手遅れのようだ……。

「僕もそこに住んでるんだよ～！！」
「え？」

なるほど～！っは！

「ってことはどこに白滝荘があるのか分かるってことだよね！」
「そ～ゆ～こと～ってえぇ！？普通にあのボロいのだよ！！」

ですよね～～……ｏｒｚ

「やっぱりあれだった～～～！！！畜生！」

ん？なんか忘れてない？

「死ね～～！！」
「おめぇこそ～～！！」

……あっ

「それじゃ白滝荘にレッツゴォォォォォォオオオ！！」
「ちょっとまって！！ケンカしたままだよ！？いいＮＯＯｏｏｏｏｏ．．．。」

1章　白滝荘にようこそ！（1）（後書き）

ノリでやっちゃった☆
……え、なんでめっさ笑顔なの？
……手に持った包丁は何！？
ちょっっまっっ
ニギャァァァァァァァ……。
作者は遠い所に逝きました……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7247m/

白滝荘（しろたきそう）の日常

2010年11月24日03時58分発行